

## 地誌 第6回「東南アジア地誌① 自然地理と社会・文化」

○今回のポイント

東南アジアは文化の接触・交流地点！複合的・上層的な文化が醸成。

### 東南アジア地誌 1. 多様な民族と文化

<東南アジア自然地理>

- ・ [① 大陸部 ](5か国)…ミャンマー、タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム
- ・ [② 島嶼部 ](6か国)…フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、東ティモール

(1)地形 (大地形は資料集 p.3 右下地図で確認)

○大陸部

- ・ [③ マレー半島～ミャンマー ]は[新期造山帯。それ以外は安定陸塊と古期造山帯
- ・ [④ 三角州 ]…メコン川、チャオプラヤ川、エーヤワディー川の下流部で発達。
- ・ [⑤ メコン川 ]…東南アジア最澄の河川。チベット高原を水源として南シナ海にそそぐ国際河川。タイとラオスの自然国境ともなっている。

○島嶼部

- ・ 大部分は新期造山帯
- ・ フィリピン～ニューギニア島： [⑥ 環太平洋造山帯 ]⇒フィリピン海溝
- ・ インドネシアのジャワ島やスマトラ島： [⑦ アルプス・ヒマラヤ造山帯 ]⇒スンダ海溝(ジャワ海溝)

(2)気候

○低緯度に位置するので大部分が熱帯雨林気候(Af)とサバナ気候(Aw)。

- ・ [⑧ 島嶼部・マレー半島 ]などは熱帯雨林気候。
- ・ [⑨ インドシナ半島 ]はサバナ気候

○季節風の影響

- ・ 7月は海洋からの湿潤な南西季節風の影響で多雨
- ・ 1月前後は大陸からの乾燥した北東季節風の影響で少雨  
⇒ただし、赤道以南の南半球では逆になるので注意(インドネシアのジャカルタなど)

**海と陸の交流** (教科書 p.200～)

(1)交通

- ・ インド洋と太平洋をつなぐ海上交通の要衝 ⇒ 海のシルクロード、 [⑩ 陶磁の道 ]、香辛料の道

(2)宗教

○仏教

- ・ [⑪ 上座部仏教 ]…大陸部が中心(タイ、ミャンマー、カンボジア、ラオス)。個人の修行による解脱。
- ・ [⑫ 大乘仏教 ]…ベトナム(1000年にわたる中国支配の影響)。民衆の救済。

○イスラーム教

- ・ 島嶼部が中心([⑬ インドネシア ]・ブルネイ・マレーシアなど)

○キリスト教

- ・ [⑭ フィリピン ](スペイン領⇒アメリカ領)、東ティモール(ポルトガル領)

○ヒンドゥー教

- ・ インドネシアはイスラーム教だが [⑮ バリ島 ]だけはヒンドゥー教(マジャパヒト王国の影響)。

## 複雑な民族構成

・東南アジアは複数の民族が混在する多民族国家

※ ミャンマー、インドネシアでは自治・独立を求めて少数民族が政府と対立

Cf.インドネシアと東ティモール

インドネシアは蘭領、東ティモールは葡領。1975年にポルトガルが東ティモールの独立を認めた際、インドネシアに併合されてしまった。独立闘争を経て2002年にインドネシアからの分離独立を果たす。カトリックのポルトガル領であった東ティモールでは、カトリック信仰が盛ん。

### (1)マレーシア

- ・マレー系…人口の約6割。マレー語を話し、[16] イスラーム教を信じる。
- ・中国系…人口の約3割。華僑・華人。スズ鉱山の労働者として、福建省、広東省から移住。商業・貿易・金融など高い経済力を有する。中国語を話し、[17] 仏教徒が多い。
- ・インド系…人口の約1割。英領植民地時代に天然ゴムプランテーションの労働力としてインド南部から移住(英領インド)。タミル語を話し、[18] ヒンドゥー教を信仰する。

中国系住民が経済的優位に立ち、農村人口の多いマレー系は貧しく民族間で経済格差。不満が高まる！

#### [19] ブミプトラ政策の展開

マレー語を公用語、イスラーム教を国教とし、教育や雇用などでマレー系を優遇することで、多民族との経済格差の是正を目指す。

### (2)シンガポール

#### ○シンガポールの形成

WWⅡ後の1963年、イギリスからマレーシア連邦(現マレーシア+シンガポール)が独立。

しかし、マレーシア連邦ではマレー系優遇政策が展開

[20] 1965年、中国系が分離独立してシンガポールを建国

#### ○シンガポールの公用語

- ・マレー語…設定上の国語はマレー語。
- ・英語…学校教育、ビジネスでは英語中心。
- ・中国語…シンガポールは中国系住民が分離独立したので、大半の日常会話は中国語。
- ・[21] タミル語…インド系住民が日常語で使用